

(2016年3月3日)

視覚障害者向け総合イベント

「サイトワールド・2015」を振り返って

理事 岡村 原正

2016年、年が明けてこのレポートを書いています。提出が遅くなり事務局の方にもご迷惑をおかけしました。後の方で書きますが点字不要論などと云う単語が突然飛び出し、出所ほか、内容を少し調べて見ました。まずは、サイトワールドのレポートから。

2015年のサイトワールドは、最先端の技術・機器、および、日常用品等の展示会、そして、講演会、学会、フォーラム、体験会等が催される、世界でも例を見ない視覚障害者のための総合イベントです。来場者一人ひとりが主役です。が副題の下、8階では45団体53のブースを使い展示会が行われ、9階のイベント会場では、14の講演会や体験会が行われました。また、3日間の延べ来場者数は5000人という大盛況でした。

私たち、NPO法人日本点字普及協会では、11月1日に「今日は、日本点字125歳の誕生日」として9階大会議室で、講演会を行いました。内容は、阿佐 博氏（日本点字委員会顧問）に「点字の価値」。青松 紀野氏（横須賀市点字図書館 点字指導員）に「点のめぐみ」と題してお話を伺いました。

阿佐 博氏には、完全に光を失った6歳の時より、先生をなさっていたお父様との二人三脚での点字の習得、11歳まで点字盤を知らず、その後読むだけから書き写す点字に、その時の嬉しさを。またその話は、明治初期の日本点字創設期へと遡り、普段歴史として知るだけでは出てこないようなエピソードなどを伺った。阿佐氏の点字への愛情は、日本点字委員会での長年の貢献に表れていると思いました。

青松 紀野氏には、沖縄・南風原町での15歳までの親友達と先生方に支えられた、地元での学校生活、点字使用者になる事への決意と戸惑いなどを話して頂きました。東京での生活では、点字を読むスピードが上がらず悩んだこと、「ピンクい」と言う表現が沖縄の方言だと気付いた事、点字楽譜を使って読みのスピードを上げた事、点字サインや模型・地図が大好きで、初めての駅では必ずさわる事などを楽しそうに話されました。

その後、質疑応答の時間に入り会場より幾つかの質問が出ました。

① UV 点字が増えて来ているが、どう思うか？

阿佐 紙に書いた物が一番読みやすいが、UV やピンなどもそれなりに読める。  
要は、必要な所に必要な物があればいい。

青松 阿佐先生に同感するし、メニューなどには良いかも。  
と、回答された。次に冒頭にも書いた皆がびっくりした質問が出された。

② 最近、点字不要論が聞かれる様になったが、それについてどう思うか？

阿佐 点字離れは、20年前から言われて来ている。その根拠は点字図書館などの音声と点字の比率から来ているのだろうが、それは点字を読めない人が借りているだけだろう。古文や外国語などの勉強は点字でなければ出来ない。

青松 点字の他にあれば、パソコンが可能性あるが前提として電気の有る所での使用が条件になる。文章の推敲などは点字でなければ絶対に無理。

前点字普及協会理事長の高橋実氏は、「自分の使命は、点字を必要とする人がいる限り供給し続けるし、もし不要だというのなら必要になるまで待てば良い。」

などの、意見を得た。しかし何故点字不要論などという考えが出て来たのか。質問者に聞いたところ、不要論は教育の現場や職場から出ていると話す。

少しリサーチをして見た。知り合いの特殊教育・大学・情報関係者からの話によると、根っこに有るのは、数年後には実用化されると思われる iPad などのタブレット端末による教科書の電子データ化に有るようだ。ここからは私の想像も入るが、インクルーシブ教育を目標に置いた今、日本全体が電子教科書になった時、点字教科書はどうするのか。今まで通りで良いのか。テキストデータを混在させペンディスプレイで読ませたらどうか？

いや、その前に音声化すれば図書館の貸出比率から考えても、ほとんどの所いけるのではないか。図形その他は副担任などの介助者にまかせれば良いのではないか？ それに音声化できれば、学習障害の子や外国語の習得にも便利になる。それでは点字をどうする？

取りあえず時間も無いから、後から考えよう。などの経緯をへて、教育の現場などから点字不要論なる物が生まれて来たのではないかと思われる。とんでもない話である。

点字は、ロービジョン教育の中でも不要にされた歴史がある。今回講演をして頂いた青松氏も、「残存視力を使った勉強の難しさは感じていた。今ではもっと早くから点字を習得していれば良かったと思っている。」と話されていた。

今回の日本点字普及の講演会並びに、Lサイズ点字の体験・展示会を通じて、点字の大切さ便利さを改めて知ることができた。また同時に点字の置かれている状況の厳しさを感じ取る貴重な場を持てた。とても有意義な時間に改めて感謝したいと思う。

## 【お知らせ】

### 1. Lサイズ点字プリントサービスを始めました

27年度も、丸紅基金に助成申請したLサイズ点字プリンターが採択されませんでした。

そこで、団体会員である「にじの会」のご協力をいただき、以下の要項によりLサイズ点字プリントサービスを独自に始めることにしました。

---

## Lサイズ点字プリントサービス事業実施要項

特定非営利活動法人日本点字普及協会

1. 【目的】 Lサイズ点字の普及を図り、点字を読める視覚障害者を増やすため、希望者に対してLサイズ点字をプリントし、実費で提供する。

2. 【本事業の作業担当者】 本事業の作業は、団体正会員である福島視覚情報サポートセンターにじ（以下、「サポートセンターにじ」という。）が行う。

福島視覚情報サポートセンターにじ

〒960-8074 福島市西中央二丁目23-1

特定非営利活動法人にじの会

電話 024-529-7021

F A X 024-529-7031

Email [niji@nponiji.com](mailto:niji@nponiji.com)

U R L <http://nponiji.com>

### 3. 【本事業の流れ】

① 点字プリント希望者は、サポートセンターにじに、電話・メール・F A X等で、Lサイズ点字プリントを申し込む。

その際、希望者の氏名、住所、連絡先とともに、プリントするデータ名、部数、装丁の方法を明記する。期限がある場合には、その期日を書き添える。ただし、希望に添えない場合もある。

② プリントを希望するデータは、希望者が提供するものとする。

③ サポートセンターにじは点字プリント終了後、振込用紙を同封して、点字用郵便で郵送する。振込手数料は希望者の負担とする。

### 4. 【点字用紙その他の経費】

Lサイズ点字用紙1枚 7円

バインダー 1冊 440円

（しおり、タイトル墨字・点字付きは 490円）

バインダー綴じを希望しない場合は、ひもとじ(無料)とする。

ただし、今後点字用紙・バインダーなどの価格に変動があった場合は、経費

が変わる場合もある。

5. 【本事業の開始】本事業は、2016年1月1日から開始する。

---

どうぞご利用ください。

## 2. 凸面点字器試作品ができました

点字普及協会では発足当初から、中途視覚障害者が点字学習する際のハードルを少しでも低くするため、そして、小学生が「総合的な学習」などで、短時間で点字の読み書きをする際に便利な道具として使うことができる凸面点字器の開発に取り組んでいます。

昨年夏から、島根県浜田市にある企業と連携して試作を始めていて、3Dプリンターを使った試作品をこれまでに2度作っていただいています。

そして、今年1月30日に26マス4行の点字器と点筆の試作品が届きました。かなり完成品に近い物ができたと思われまます。

今、点字普及協会会員の希望者、及び昨年サイトワールドでの点字普及協会のイベント会場でモニターを希望された人に、順に送ってモニタリングをしていただいています。

なお、凸面点字器の試作品は、点字普及協会28年度総会会場で展示します。

## 3. 公開研修会「中途視覚障害者への点字学習指導の実際」

点字普及協会では、28年度総会の議事終了後に行う研修会を公開します。関心のある方は、どうぞお気軽にご参加ください。

テーマ：中途視覚障害者への点字学習指導の実際

講師：原田良實氏

日時：平成28年4月23日（土）14時30分～16時30分

会場：新宿区立NPO協働推進センター 5階・501会議室

住所：新宿区高田馬場4-36-12

電話：03-5386-1315

※会場は、JR高田馬場駅戸山口から徒歩約15分です。

お問い合わせは、

日本点字普及協会事務局 [info@tenjifukyu.jp](mailto:info@tenjifukyu.jp)

以上